

評価のまとめの方向性(案)

(BSE非発生国を対象に、定型BSEを前提とした自ら評価)

		侵入リスクと国内安定性の組み合わせ(生体牛のリスク)			
		全ての期間が 青色or水色 の場合	過去に緑色の期間があるが、 直近(5年間程度)は 青色or水色の場合	過去に黄色の期間があるが、 直近(5年間程度)は 青色or水色の場合	直近まで 黄色～橙色 の場合
現状の食肉処理工程におけるリスク低減効果	「ほとんどなし」	<p>侵入リスクと国内安定性の評価の結果から、国内でBSEが暴露・増幅した可能性は無視できると考えられる。</p> <p>したがって、我が国に輸入される牛肉等がBSEプリオンに汚染されている可能性は無視できると考えられる。</p>	<p>侵入リスクと国内安定性の評価の結果から、過去に国内でBSEが暴露・増幅した可能性は低く、その後国内安定性が改善したため、現在は国内でBSEが暴露・増幅している可能性は非常に低いと考えられる。</p> <p>また、食肉処理工程におけるリスク低減効果が「ほとんどなし」と推定されたことから、我が国に輸入される牛肉等がBSEプリオンに汚染されている可能性は否定できないものの非常に低いと考えられる。</p>	<p>侵入リスクと国内安定性の評価の結果から、過去に国内でBSEが暴露・増幅した可能性は否定できないが、その後国内安定性が改善したため、現在は国内でBSEが暴露・増幅している可能性は低いと考えられる。</p> <p>また、食肉処理工程におけるリスク低減効果が「ほとんどなし」と推定されたことから、我が国に輸入される牛肉等がBSEプリオンに汚染されている可能性は否定できないと考えられる。</p>	<p>侵入リスクと国内安定性の評価の結果から、過去に国内でBSEが暴露・増幅した可能性は否定できず、現在も国内安定性が不安定な状態であるため、今後も暴露・増幅が続く可能性があると考えられる。</p> <p>また、食肉処理工程におけるリスク低減効果が「ほとんどなし」と推定されたことから、我が国に輸入される牛肉等がBSEプリオンに汚染されている可能性があると考えられる。</p>
	「非常に大きい」		<p>侵入リスクと国内安定性の評価の結果から、過去に国内でBSEが暴露・増幅した可能性は低く、その後国内安定性が改善したため、現在は国内でBSEが暴露・増幅している可能性は非常に低いと考えられる。</p> <p>また、食肉処理工程におけるリスク低減効果が「非常に大きい」と推定されたことから、我が国に輸入される牛肉等がBSEプリオンに汚染されている可能性は無視できると考えられる。</p>	<p>侵入リスクと国内安定性の評価の結果から、過去に国内でBSEが暴露・増幅した可能性は否定できないが、その後国内安定性が改善したため、現在は国内でBSEが暴露・増幅している可能性は低いと考えられる。</p> <p>また、食肉処理工程におけるリスク低減効果が「非常に大きい」と推定されたことから、我が国に輸入される牛肉等がBSEプリオンに汚染されている可能性は無視できると考えられる。</p>	<p>侵入リスクと国内安定性の評価の結果から、過去に国内でBSEが暴露・増幅した可能性は否定できず、現在も国内安定性が不安定な状態であるため、今後も暴露・増幅が続く可能性があると考えられる。</p> <p>しかし、食肉処理工程におけるリスク低減効果が「非常に大きい」と推定されたことから、我が国に輸入される牛肉等がBSEプリオンに汚染されている可能性は非常に低いと考えられる。</p>